

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

3歳の孫との会話で考えたこと

先日、3歳になる孫と話をした時のことです。孫は、保育園で行われた室内マラソン大会で一番になったと一生懸命話してくれました。私が「走ることは好きなの？」と尋ねますと、「好きよ。速く走れるよ。」と自慢気に話します。しかし、娘（孫の母）が言うには、マラソン大会の順位は、かなり後ろの方で、一番ではなかったそうです。きっと、保育園の先生が、一生懸命頑張って走った孫に対して、優しいねぎらいの言葉をかけてくれたのではないかと思います。孫が言った「走ることが好き」「自分は速い」という言葉を聞いて、とてもありがたく思いました。まず、走ることが好きだということは、これからも走ることを苦にせずに保育園生活を送ることができるということです。そして、走るのが速いという自信は、これからいろいろなことに挑戦する活力源になるはずです。

しかし、一方で、この孫の気持ちがいっまでも続くようには思えません。わたしたちは、とかく「比較」によって価値付けをします。成長し、客観的に物事をみるようになると、保育園の集団の中で何番目か、友だちと比べてどうかということを気にするようになるはずです。孫と娘の話を聞きながら、得意でなくてもいいから嫌いにはならないでほしい、上手くなくてもいいから自信まで失わないでほしいと思いました。これからも続く集団生活の中で、周囲ばかりに目を奪われ自分を見失うことがないように生きてほしいものです。

ポーチェラカが咲きました

昨年度のことです。学校にはたくさんのプランターや花壇がありますが、夏休み中にほとんどの花が枯れ、雑草が伸び放題になりました。そこで、今年は、水やりを欠かさないようにしました。

その中でいくつか気付いたことがあります。一つは、育てている花は、いずれも春・夏用の苗ですが、種類によって暑さに対する耐性が違うということです。今年は、ほとんど雨が降らず、暑い日が続きましたが、その中でも元気に育つ種類もあれば、しおれやすい種類もありました。しおれかけの花には、かける水を増やすようにしました。二つは、同じ花を植えているプランターでも、一日中日なたの場所より、日陰ができる場所にあるプランターの花の方がよく育つことです。植物にとって必要だとされる日光も、多過ぎると「害」になるということです。三つは、ポーチェラカという花の特徴です。ポーチェラカがいっまでも咲かないため不思議に思い、A Iに尋ねました。すると、ポーチェラカは、強い日差しを好み、水のやり過ぎは良くないそうです。咲かないため、一生懸命に水をやったことが良くなかったようです。水のやり方を変えると、ここ数日で、カラフルな花が咲きました。自分で調べ工夫してみて、そのことが上手くいくと嬉しいものですね。



花に水をやるという単純な作業ですが、どの花にも一律同じように水をやればいいというわけではありませんでした。花の状態を観察し、正しい知識をもって対応することが大切だということが改めてよくわかりました。

きれいな花をつけたポーチェラカ
(白黒で分かりにくいですが)